

スーパーマーケット販売統計調査資料

2018 年 7 月実績 速報版(パネル 270)

6 月実績 確報版(パネル 270)

2018 年上半期集計 確報版

(2018 年 8 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年8月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2018年7月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	91,888,180	100.0%	102.2%	100.9%
食品合計	82,773,386	90.1%	102.7%	101.4%
生鮮3部門合計	30,230,335	32.9%	103.1%	101.6%
青果	12,268,604	13.4%	105.1%	103.7%
水産	7,941,232	8.6%	101.7%	100.3%
畜産	10,020,499	10.9%	101.7%	100.1%
惣菜	9,413,394	10.2%	102.3%	100.6%
日配	18,258,232	19.9%	103.0%	101.8%
一般食品	24,871,424	27.1%	102.3%	101.1%
非食品	6,655,202	7.2%	98.2%	97.7%
その他	2,459,638	2.7%	97.1%	97.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,740,932	43	101.1%	99.5%
関東地方	34,112,185	73	102.7%	101.5%
中部地方	11,141,114	53	101.4%	100.0%
近畿地方	19,398,008	44	102.4%	102.0%
中国・四国地方	9,312,833	34	103.3%	100.9%
九州・沖縄地方	5,183,107	23	99.7%	99.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	664,553	45	96.8%	97.5%
4～10店舗	3,977,222	72	101.2%	101.0%
11～25店舗	10,224,774	63	100.2%	100.2%
26～50店舗	16,603,821	46	101.3%	99.8%
51店舗以上	60,417,810	44	102.7%	101.4%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	89,627,210
総店舗数（店舗）	7,927	店舗平均月商（万円）	11,592
総売場面積（㎡）	12,998,208	売場1㎡あたり売上高（万円）	7.1

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年8月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2018年6月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,597,030	100.0%	101.3%	100.1%
食品合計	78,873,624	90.0%	101.6%	100.3%
生鮮3部門合計	29,264,459	33.4%	100.8%	99.5%
青果	11,966,536	13.7%	100.2%	98.9%
水産	7,304,599	8.3%	101.1%	99.8%
畜産	9,993,324	11.4%	101.4%	99.9%
惣菜	8,754,909	10.0%	102.8%	100.8%
日配	17,286,939	19.7%	101.3%	100.2%
一般食品	23,567,317	26.9%	102.4%	101.2%
非食品	6,367,364	7.3%	99.0%	98.6%
その他	2,356,089	2.7%	97.5%	98.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,128,292	43	102.2%	100.2%
関東地方	32,359,728	73	102.0%	100.9%
中部地方	10,643,042	53	100.8%	100.3%
近畿地方	18,991,285	44	99.8%	99.3%
中国・四国地方	8,677,225	34	101.2%	98.4%
九州・沖縄地方	4,797,458	23	101.1%	100.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	645,026	45	95.0%	96.2%
4～10店舗	3,762,948	72	100.3%	99.0%
11～25店舗	9,695,843	63	99.3%	99.0%
26～50店舗	15,817,313	46	100.8%	99.5%
51店舗以上	57,675,900	44	101.9%	100.6%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,460,648
総店舗数 (店舗)	7,925	店舗平均月商 (万円)	11,053
総売場面積 (㎡)	13,128,766	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年8月21日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2018年上半期集計（パネル270） 確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	523,104,532	100.0%	101.0%	99.7%
食品合計	467,198,332	89.3%	101.3%	99.9%
生鮮3部門合計	178,311,933	34.1%	101.5%	100.0%
青果	73,333,790	14.0%	102.3%	101.0%
水産	44,719,502	8.5%	99.3%	98.0%
畜産	60,258,640	11.5%	102.2%	100.5%
惣菜	52,567,037	10.0%	102.6%	100.5%
日配	101,207,892	19.3%	101.1%	99.9%
一般食品	135,111,470	25.8%	100.9%	99.6%
非食品	38,620,127	7.4%	98.0%	97.6%
その他	17,286,073	3.3%	96.5%	97.3%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	72,285,756	43	101.0%	99.3%
関東地方	192,788,740	73	101.5%	100.2%
中部地方	64,219,102	53	101.0%	99.9%
近畿地方	113,067,229	44	100.1%	99.4%
中国・四国地方	51,957,141	34	100.8%	98.4%
九州・沖縄地方	28,786,564	23	100.2%	99.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	4,134,773	45	97.6%	97.4%
4～10店舗	23,013,816	72	100.3%	98.8%
11～25店舗	58,796,901	64	99.7%	98.3%
26～50店舗	92,976,697	45	100.0%	99.1%
51店舗以上	344,182,344	44	101.5%	100.1%

※保有店舗数カテゴリーは2015年1月時点での保有店舗数による分類

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	510,015,993
----------	-----	-------------	-------------

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年7月エリア別気候状況

1. 7月気温の特徴：北・東・西日本では気温がかなり高かった

上旬：東・西日本で高く、北日本で平年並だった。一方、沖縄・奄美はかなり低かった。

中旬：東・西日本でかなり高く、北日本で高かった。

下旬：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美では平年並だった。

2017年7月との比較：北海道では上旬と中旬低く、東日本では中旬から下旬にかけて前年より高くなった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2018年7月			2017年7月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-0.8	0.6	2.3	3.1	3.6	0.9	-3.9	-3.0	1.4
東北地方	2.2	3.1	2.6	3.1	3.5	0.5	-0.9	-0.4	2.1
関東甲信地方	2.7	4.1	2.2	2.6	2.6	0.8	0.1	1.5	1.4
北陸地方	2.5	3.4	3.0	1.8	3.1	0.5	0.7	0.3	2.5
東海地方	1.9	3.6	2.2	2.1	1.9	1.0	-0.2	1.7	1.2
近畿地方	1.6	3.4	2.1	1.5	2.2	1.2	0.1	1.2	0.9
中国地方	0.9	3.1	2.5	1.9	2.3	1.1	-1.0	0.8	1.4
四国地方	0.8	2.1	1.2	1.1	1.4	1.5	-0.3	0.7	-0.3
九州北部	0.5	2.4	1.7	1.7	1.7	1.8	-1.2	0.7	-0.1
九州南部・奄美地方	0.0	0.3	0.3	1.1	0.7	1.2	-1.1	-0.4	-0.9

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

2. 7月日照時間の特徴：東日本と西日本日本海側では日照時間がかなり多かった

上旬：北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、北・西日本太平洋側で少なかった。東日本は多かった。□

中旬：東・西日本でかなり多く、北日本太平洋側は多かった。

下旬：北・東日本日本海側でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本日本海側では多かった。

2017年7月との比較：上旬は北日本を中心に少なく、中旬以降東・西日本で多く、下旬は、北日本と東日本を中心に多くなった

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2018年7月			2017年7月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	30	93	153	147	128	120	-117	-35	33
東北地方	100	131	137	179	164	77	-79	-33	60
関東甲信地方	145	195	134	167	172	65	-22	23	69
北陸地方	139	241	166	143	175	70	-4	66	96
東海地方	118	188	129	141	151	73	-23	37	56
近畿地方	97	208	132	101	156	72	-4	52	60
中国地方	82	227	140	77	159	79	5	68	61
四国地方	63	181	100	76	139	98	-13	42	2
九州北部	83	222	118	65	145	109	18	77	9
九州南部・奄美地方	54	145	79	93	119	108	-39	26	-29

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

3. 7月降水量の特徴：「平成 30 年 7 月豪雨」が発生

上旬：北日本、東日本日本海側、西日本と沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。□

中旬：東・西日本はかなり少なく、北日本太平洋側は少なかった。

下旬：東日本太平洋側と沖縄・奄美では多かった。一方、北日本と東日本日本海側ではかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。

2017年7月との比較：上旬は西日本を中心にかなり多く、中旬は全国的に少なく、下旬は北日本と北陸地方でかなり少なくなった

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2018年7月			2017年7月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	485	118	10	51	121	129	434	-3	-119
東北地方	111	43	26	104	77	227	7	-34	-201
関東甲信地方	118	25	149	110	34	112	8	-9	37
北陸地方	203	3	0	238	59	396	-35	-56	-396
東海地方	220	6	86	68	43	62	152	-37	24
近畿地方	563	1	116	106	33	123	457	-32	-7
中国地方	359	0	26	112	27	115	247	-27	-89
四国地方	453	1	136	110	18	46	343	-17	90
九州北部	263	0	40	134	31	24	129	-31	16
九州南部・奄美地方	268	12	157	74	52	30	194	-40	127

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

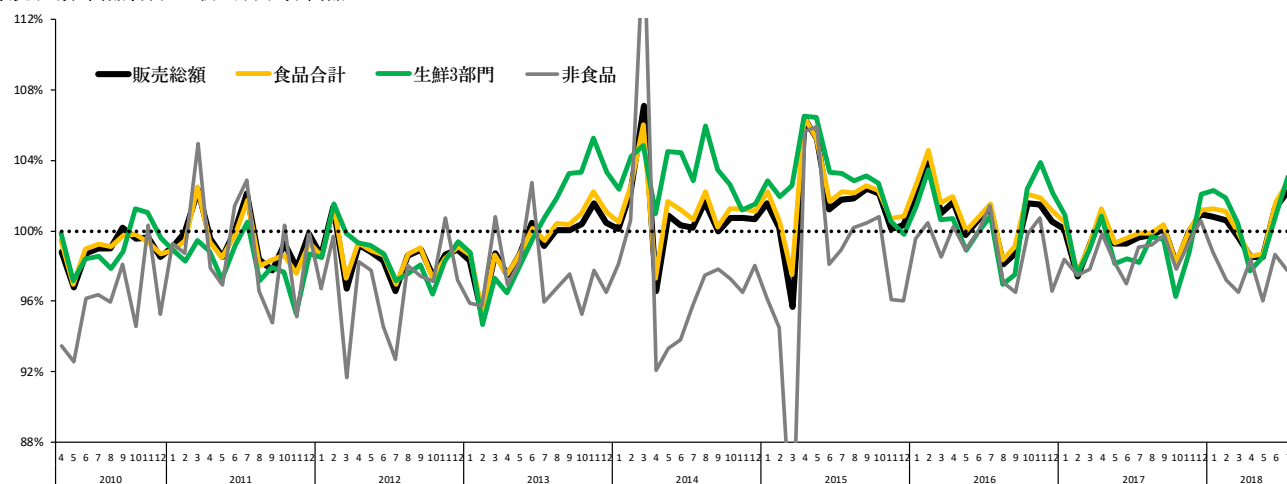
気象庁ホームページ・報道発表資料「7月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

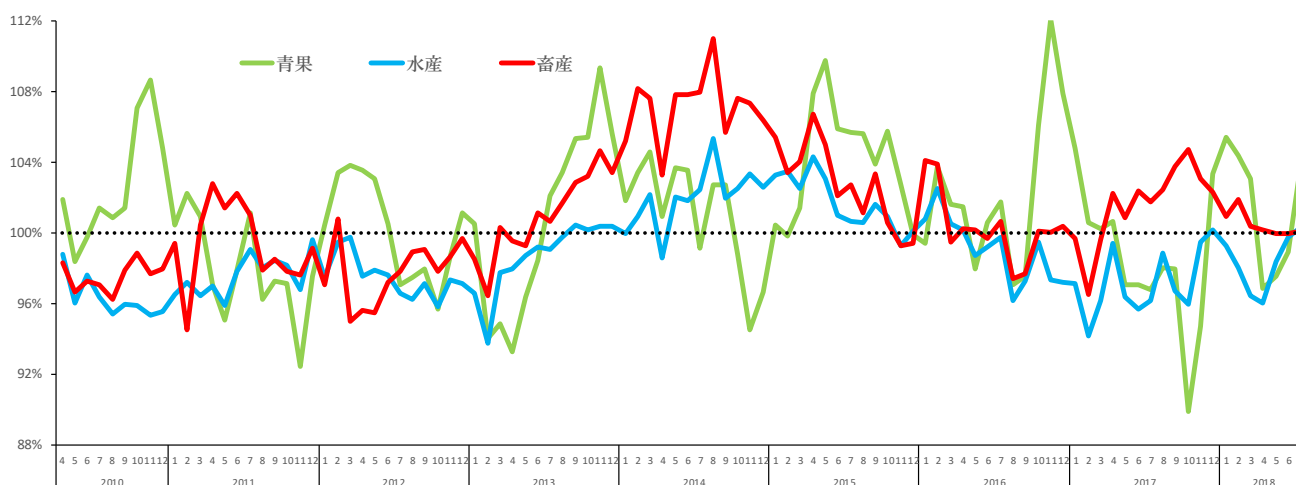
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

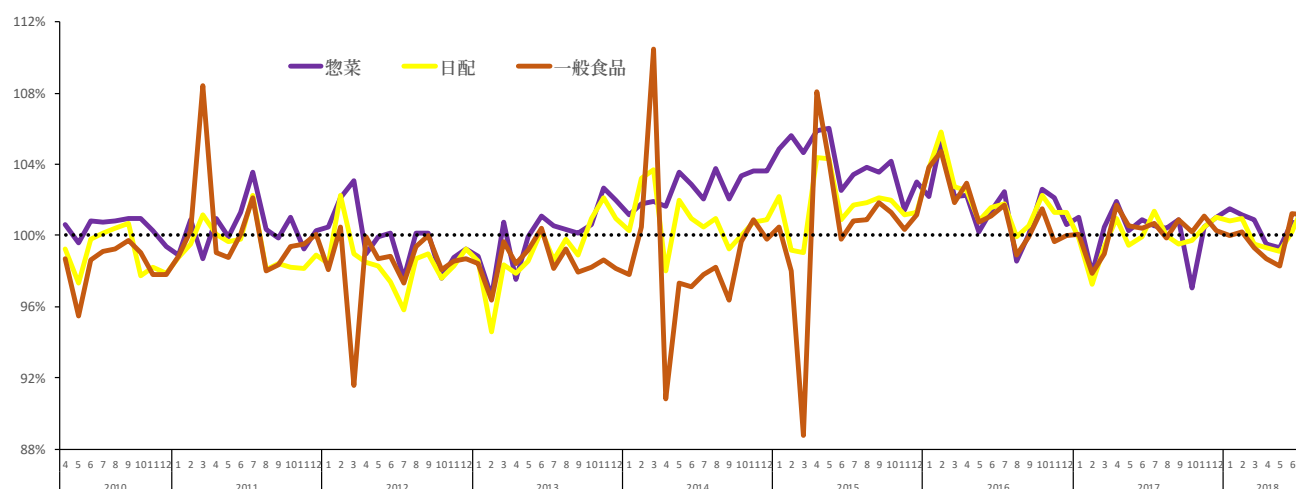
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年6月までは確報版による前年同月比、2018年7月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2018 年 8 月調査結果（7 月実績）
（2018 年 8 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

8月調査（7月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに2ヵ月連続の改善

7月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+2.6の47.9、見通し判断は前月から+2.2の46.2となり、どちらも2ヵ月連続の改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DIが-3.3、収益DIは-5.1とどちらも前月からマイナス幅を縮小した。青果相場が中旬以降高騰したことで生鮮仕入原価DIは+10.8まで上昇し、客単価DIが6.3とプラス圏に維持したことが売上DIの改善につながった。一方で土曜日が少ないことや猛暑や豪雨により来客数DIは-12.2と二桁のマイナス水準での低迷が続いている。

カテゴリー動向調査では、相場の高騰や果物類の好調により青果DIが+6.9、猛暑により夏物商材が好調な日配DIが+1.8、一般食品DIが+1.1とプラス圏を回復した。他のDIについては前月と同水準での推移となった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、すべてのDIで現状判断、見通し判断ともに2ヵ月連続の改善をみせた。特にこれまで低迷していた中核店舗景気判断DIや消費者購買意欲DIの改善が続いている。

土曜日が1日少ないにも関わらず、猛暑や中旬以降の好天の恩恵や、青果相場の高騰により客単価が上昇したことがマインド改善につながった。一方でこれまで好調を牽引してきた畜産や惣菜の勢いに陰りがみえている。また来客数減傾向には歯止めがかかっておらず有効な対策が求められるほか、近年変動が大きい気候条件が日常化しており、人手不足が慢性化するなかでも、その対応力が求められる状況にある。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：**47.9** (+2.6)
前月：45.3

消費者購買意欲DI
当月：**47.6** (+2.3)
前月：45.3

周辺地域 競合状況DI
当月：**42.5** (+1.3)
前月：41.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：**47.3** (+0.4)
前月：46.9

見通し判断

景気判断DI
当月：**46.2** (+2.2)
前月：44.0

消費者購買意欲DI
当月：**46.6** (+1.9)
前月：44.7

周辺地域 競合状況DI
当月：**41.6** (+0.8)
前月：40.8

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：**47.2** (+0.7)
前月：46.5

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：**-3.3** (+4.5)
前月：**-7.8**

客単価DI
当月：**6.3** (+1.0)
前月：5.3

来客数DI
当月：**-12.2** (+4.3)
前月：**-16.5**

収益DI
当月：**-5.1** (+2.5)
前月：**-7.6**

販売価格DI
当月：**3.4** (+3.3)
前月：0.1

生鮮品仕入原価DI
当月：**10.8** (+8.3)
前月：2.5

食品仕入原価DI
当月：**5.3** (-0.2)
前月：5.5

カテゴリー動向

青果DI
当月：**6.9** (+14.4)
前月：**-7.5**

水産DI
当月：**-7.8** (+0.3)
前月：**-8.1**

畜産DI
当月：**-4.6** (-0.9)
前月：**-3.7**

惣菜DI
当月：**-2.0** (-0.3)
前月：**-1.7**

日配DI
当月：**1.8** (+8.4)
前月：**-6.6**

一般食品DI
当月：**1.1** (+3.7)
前月：**-2.6**

非食品DI
当月：**-10.1** (+0.4)
前月：**-10.5**

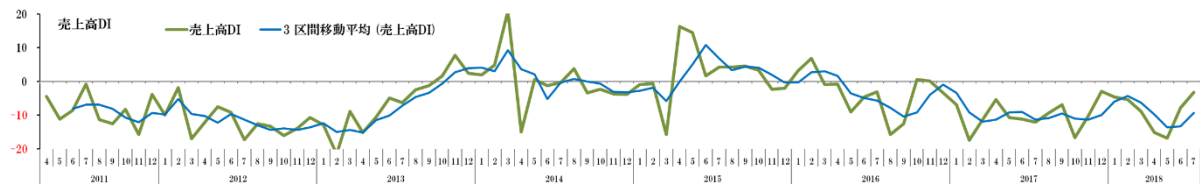
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

8月調査（7月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

5ヵ月連続低下から2ヵ月連続の上昇に転じる

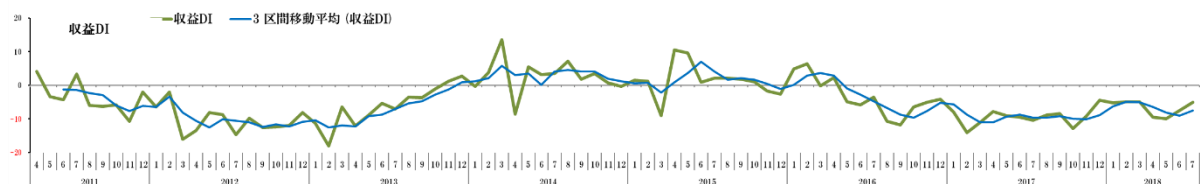
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	10.8	35.0	29.6	23.6	1.0	-7.8
売上高（当月）	7.1	31.4	30.8	29.0	1.8	-3.3



2. 収益DI

2ヵ月連続で小幅に上昇をみせ、マイナス幅を縮小

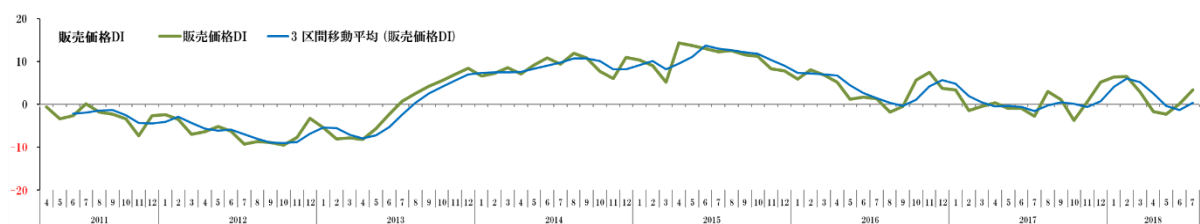
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	9.0	37.3	30.8	20.9	2.0	-7.6
収益（当月）	7.2	32.9	34.1	24.6	1.2	-5.1



3. 販売価格DI

小幅に上昇し、プラス圏を回復

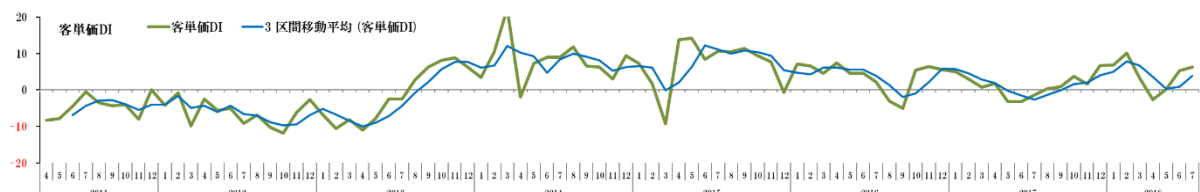
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.5	17.1	63.9	18.5	0.0	0.1
販売価格（当月）	0.0	14.8	56.8	28.4	0.0	3.4



4. 客単価DI

前月反転上昇後、プラス圏を維持

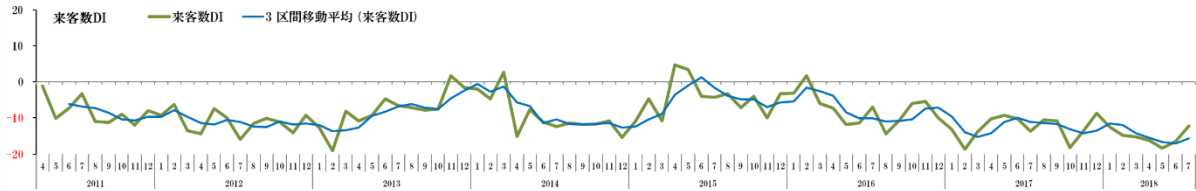
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.0	16.2	44.1	38.2	0.5	5.3
客単価（当月）	0.6	15.5	43.5	39.3	1.2	6.3



5. 来客数 DI

小幅に上昇するも二桁マイナス水準は継続

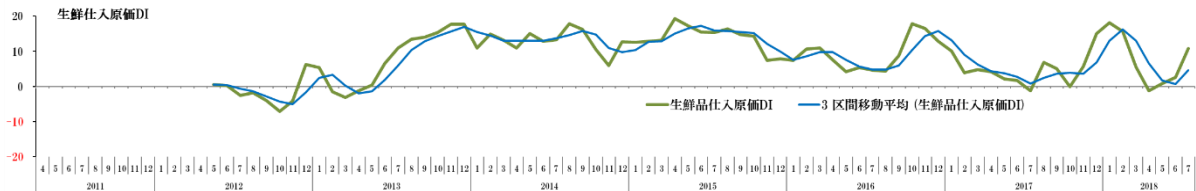
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	13.7	48.5	28.4	8.8	0.5	-16.5
来客数 (当月)	6.0	48.8	33.9	10.7	0.6	-12.2



6. 生鮮仕入原価 DI

二桁プラスまで大きく上昇

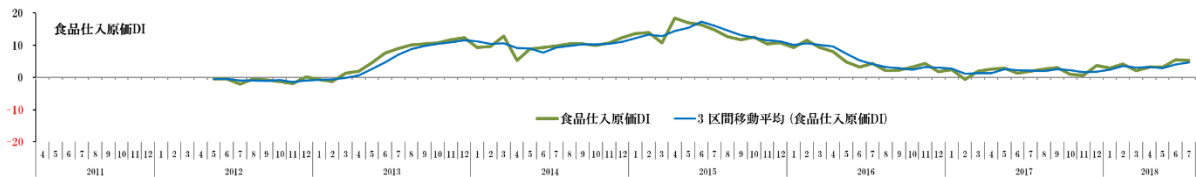
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.5	17.0	54.0	25.0	2.5	2.5
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	9.7	41.2	45.5	3.6	10.8



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で横ばい推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.5	5.5	61.7	28.4	2.0	5.5
食品仕入原価 (当月)	0.6	6.6	63.9	28.9	0.0	5.3

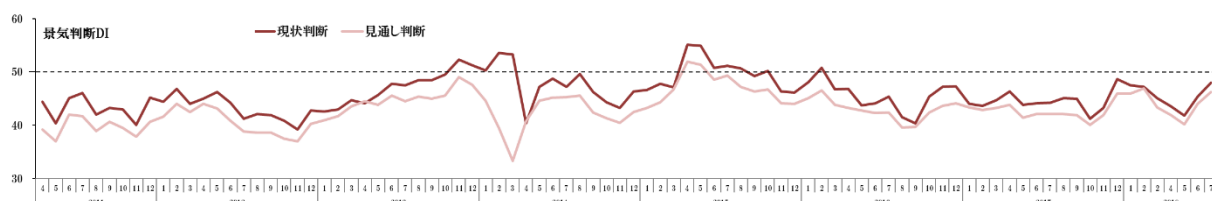


Ⅱ．景況感調査（2011 年 4 月～／周辺地域景気判断のみ 2010 年 4 月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に 2 か月連続の改善

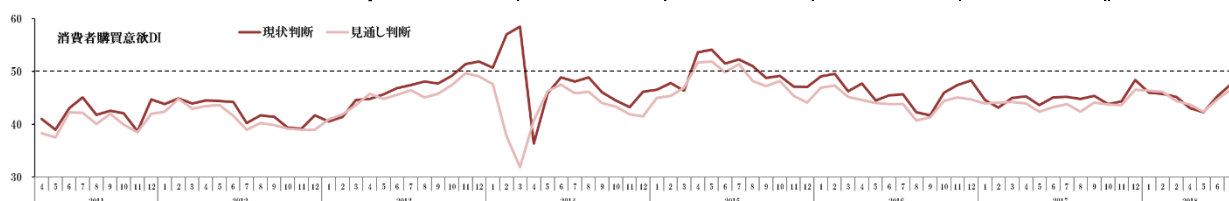
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	2.0	25.0	63.2	9.3	0.5	45.3
【現状】景気判断（当月）	1.2	20.6	64.1	13.5	0.6	47.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	2.5	28.1	60.6	8.9	0.0	44.0
【見通し】景気判断（当月）	1.2	22.9	66.5	8.8	0.6	46.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に 2 か月連続の改善

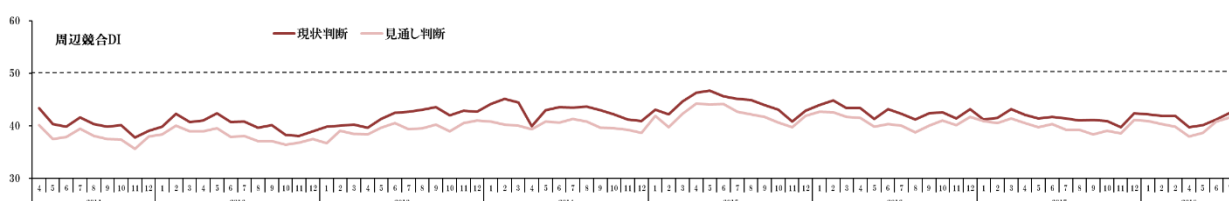
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.0	28.1	62.6	9.4	0.0	45.3
【現状】購買意欲（当月）	0.0	23.5	62.9	12.9	0.6	47.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.0	27.2	66.8	5.9	0.0	44.7
【見通し】購買意欲（当月）	0.0	20.6	72.9	5.9	0.6	46.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共にやや改善も、横ばい推移が続く

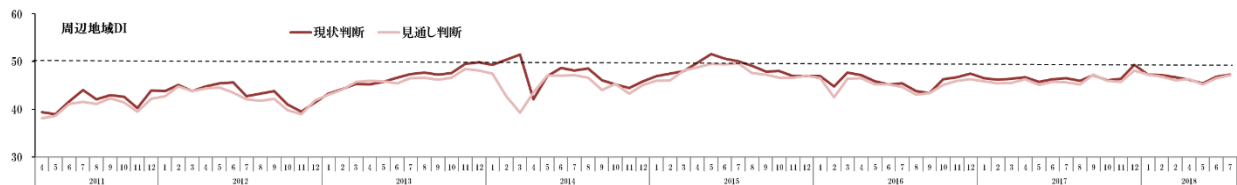
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	3.9	30.4	63.2	2.0	0.5	41.2
【現状】競合状況（当月）	3.5	25.3	69.4	1.2	0.6	42.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	4.9	29.6	63.1	2.5	0.0	40.8
【見通し】競合状況（当月）	3.5	28.2	66.5	1.8	0.0	41.6



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

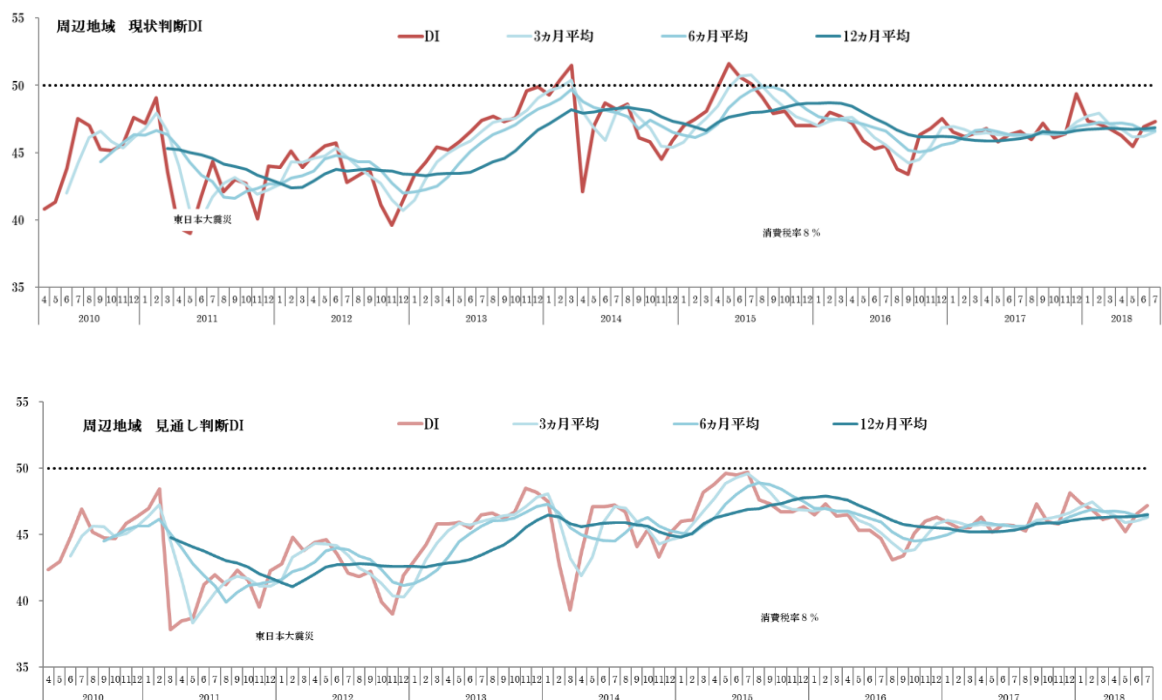
小幅ながら2か月連続の改善で高水準を維持

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	15.3	81.7	3.0	0.0	46.9
【現状】地域景気 (当月)	0.6	13.7	82.1	3.0	0.6	47.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	16.9	80.1	3.0	0.0	46.5
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	13.8	82.6	2.4	0.6	47.2



※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化傾向が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下したが、6月以降は2か月連続で改善をみせている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：6.9（やや好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	8.1	37.1	33.0	20.3	1.5	-7.5
青果（当月）	3.7	23.3	22.7	42.3	8.0	6.9



野菜相場は上旬相場安であったが、中旬以降の猛暑や豪雨など天候不順により大型野菜を中心に相場高となり、単価が上昇した。猛暑となった地域ではレタスやトマト、キュウリなどサラダ商材やネギなどの薬味用が好調となった。一方で入荷不足や品質の低下を指摘するコメントもみられた。

果物類は猛暑によりスイカ、出荷時期が前倒しになった桃やぶどうが好調となった。なかでもカットフルーツを好調とするコメントが多かった。輸入果物ではバナナやキウイフルーツが引き続き好調となっている。

2. 水産 DI：-7.8（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	13.7	32.5	29.9	20.3	3.6	-8.1
水産（当月）	12.2	31.1	36.0	17.1	3.7	-7.8



アニサキス報道から1年が経過したことで影響は一巡したが、生カツオの販売見合わせ冷凍を使ったタタキに販売方法などの影響は続いている。刺身類は、マグロが高騰による影響を受けたが、サーモンやサラダ向けに販売するなどにより総じて好調となった。うなぎは相場が高騰しており、数量下落を単価上昇でカバーできなかった店舗が多い。アジは仕入れ不足で不調、海藻類は前年不振の反動も加わり好調となった。

3. 畜産 DI：-4.6（やや不調）

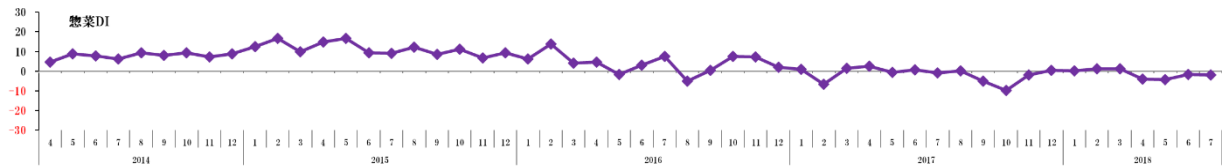
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	7.7	28.2	37.9	23.6	2.6	-3.7
畜産（当月）	6.1	32.9	36.0	23.2	1.8	-4.6



牛肉は気温上昇により焼肉やステーキ用が伸びた地域と猛暑により伸び悩んだ地域がみられた。総じて輸入牛の動きはよいが、週末は特に高単価牛の動きがよかったとのコメントもみられた。相場の高めに推移している豚肉は冷しゃぶ、生姜焼き用などが好調だったが、輸入豚に切り替え単価下落した店舗もみられた。鶏肉はサラダチキン用が好調を牽引しているものの、単価下落により伸び悩んだ。ハムやソーセージなどの加工肉は不調とする店舗が多い。

4. 惣菜DI：-2.0（やや不調）

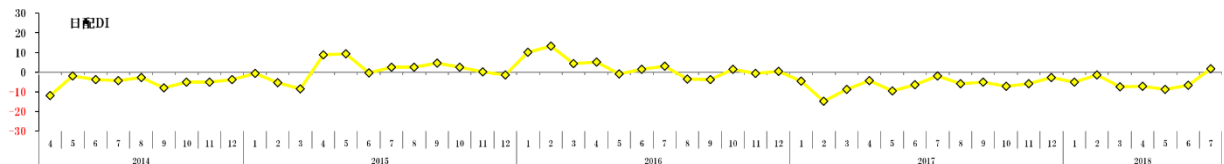
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.7	24.2	39.7	23.7	4.6	-1.7
惣菜（当月）	5.6	26.5	42.6	21.0	4.3	-2.0



前年アニサキス報道からの反動で寿司類が持ち直し好調となった。米飯類、サラダ関連の動きがよかったものの、揚げ物は好不調がわかれている。つまみ用商材や涼味惣菜は総じて好調となった。大雨の影響や猛暑により日中の来客数減の影響を受けた店舗もみられた。人手不足により十分な生産ができない、天候に合わせた対応するのに苦慮した店舗もみられた。土用丑の日の曜日巡りが影響しウナギ弁当などは前年以下の売上にとどまった店舗が多い。

5. 日配DI：1.8（やや好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.6	31.8	41.9	16.7	2.0	-6.6
日配（当月）	3.0	23.2	40.2	30.5	3.0	1.8



猛暑となった地域では、アイス、飲料など涼味系や豆腐、ところてんなどの夏物商材の動きがよかった。好調が続く納豆に加え、梅干しを中心に漬物が特需となっている店舗が多い。気温の上昇によりパン類は動きが悪かったが、一部では保存用食材としての買いだめもみられた。ヨーグルトは好不調まちまちな判断となっているが、牛乳や卵は伸び悩んだ。ドラッグストアとの価格競争を指摘するコメントがみられた。

6. 一般食品：1.1（やや好調）

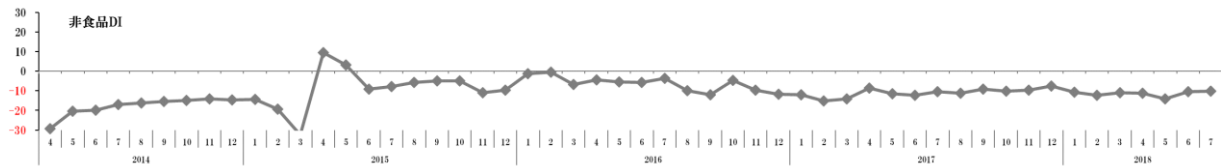
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.7	24.6	42.1	25.6	1.0	-2.6
一般食品（当月）	7.4	19.0	39.3	30.7	3.7	1.1



猛暑となった地域では、飲料やそうめんなどの乾麺類等、涼味関連商材の動きがよかった。特にスポーツドリンクなど熱中症対策用商材は特需となったが欠品でチャンスロスがあった店舗もあった。西日本では災害による買いだめや品薄もみられた。米類は単価が上昇しており好調となっている。報道によりサバ缶の好調が続いている。猛暑の影響で調味料、野菜価格高騰によりドレッシングなどは不調となった。酒類は好不調がわかれている。他業態との価格競争の厳しさを指摘するコメントがみられた。

7. 非食品 DI：-10.1（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.5	31.3	39.6	15.1	0.5	-10.5
非食品（当月）	13.2	29.6	44.7	9.4	3.1	-10.1



熱中症対策商品を中心に制汗剤、日焼け止めなど夏物商材の動きがよくなったが、タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどとの競合の影響が大きくなっており、売場を縮小している店舗もみられるなど、全体的に伸び悩みをみせた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2018 年 8 月調査（7 月実績）キーワード TOP3

1. 中旬以降青果相場高騰
2. 天候要因（豪雨・猛暑）
3. 土曜日が一日少ない

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

7 月実績速報版 170 社
 6 月実績確報版 204 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp